

福岡県民と医師をつなぎ、あしたの健康へとつなぐ

えがおから

医療ブック

EGAO
KARA
medical book

vol.27
2024

あなたの「もしも」に頼れる「お守り」
「とびうめネット」を
ご存じですか？



TOBIUMENET



医療情報

EGAO HANAKO



福岡県医師会

えがおから 医療ブック
【福岡県医師会広報誌】

Vol.27

発行・編集／公益社団法人福岡県医師会

〒812-8951 福岡県福岡市博多区博多駅前2-9-30 TEL 092-431-4564

<https://www.fukuoka.med.or.jp/>

福岡県医師会
公式SNS等



LINE



YouTube



Facebook



X

地域の中で人々を支える「看護職員」を目指してみませんか？

看護職員(准看護・看護師・助産師)を目指すことができる医師会立の看護師等養成所が県内各地域にあります。入学願書受付期間・入学試験日等詳細は各学校にお問い合わせください。

地域	養成所名	課程	TEL
北九州	北九州小倉看護専門学校	看護師2年課程 准看護師課程	093-551-3184 093-551-3183
	八幡医師会看護専門学院	看護師3年課程 准看護師課程	093-671-1507
	北九州市戸畑看護専門学校	看護師2年課程	093-881-5641
	遠賀中間医師会立遠賀中央看護助産学校	助産師課程 看護師3年課程	093-203-2333
	豊前築上医師会看護高等専修学校	准看護師課程	0979-82-0607
福岡	福岡市医師会看護専門学校	看護師3年課程 看護師2年課程	092-852-1530
	筑紫看護高等専修学校	准看護師課程	092-922-5684
筑豊	直方看護専修学校	准看護師課程	0949-22-0512
	飯塚医師会看護高等専修学校	准看護師課程	0948-22-3559
筑後	久留米医師会看護専門学校	看護師2年課程 准看護師課程	0942-34-4189 0942-34-4184
	大牟田医師会看護専門学校	看護師2年課程 准看護師課程	0944-32-8152 0944-52-7698
	八女筑後看護専門学校	看護師2年課程 准看護師課程	0943-24-4877 0943-23-6284
	あさくら看護学校	看護師3年課程	0946-22-5510
	柳川山門医師会看護高等専修学校	准看護師課程	0944-72-8086

県内の医師会立看護師等養成所一覧は
福岡県医師会ホームページよりご覧いただけます。

https://www.fukuoka.med.or.jp/doctors/nursing_school/list.html



「准看護師」の魅力や養成制度の特徴をPRするチラシを作成しました！

チラシのPDFデータを
右の二次元コード、もしくは
下記のURLよりご覧いただけます。



https://www.fukuoka.med.or.jp/doctors/nursing_school2/2222.html





小児科医・日本医師会副会長

かまやち敏先生

さとし

子どもたちの健康な未来と

地域の医療を

守りたい



小児科医としての使命は子どもたちの健やかな成長を親身に支えていくこと

私が小児科医を目指したのは、小児科開業医をしていた父の背中を見て育ったことと、恩師である小児科・植田 穰教授の臨床講義の迫力に強い感銘を受けたことが大きかったと思います。医師として、そして小児科医として最も大切にしてきたことは、子どもたちの健康と幸せを守り、彼らの健やかな成長を支えることです。子どもたちはこの社会の未来を担う存在であり、彼らが健康で幸せに過ごすことは、社会全体の繁栄に直結すると考えています。診察室では、子どもたち自身だけでなく、そのご家族の抱え

る悩みや不安にも常に耳を傾けるような心がけています。それは、家庭や地域社会の問題が、子どもたちの健康や成長に影響を与えることがあるからです。小児科医の使命は、単に病気を治すことではなく、健康な未来を築くための基盤を作ることです。これこそが、子どもたちの未来、ひいてはこの国全体の未来を守る重要な役割だと思っています。

コロナ禍で見えた医師会の役割と課題

新型コロナウイルス感染症が拡大した際には、日本医師会の常任理事として感染症対策の最前線で活動してきました。新型コロナウイルス感染症についてまだ不明な点が多かった段階で、医師会からの情報発信を行うにあたっては、国民のみなさんの不安を煽らないこと、その時点で正確と判断された情報をわかりやすく迅速にお



伝えることに努めました。

また、医療従事者が安心して治療に専念できる環境を整えるため、政府との連携を図りながら、誹謗中傷や風評被害をなるべく少なくし、発熱外来の拡充、ワクチン接種の迅速な実施、感染拡大防止のための指針の策定にも携わりました。こうした経験を通じ、より多くの方の理解と協力が最も大切であることを実感しています。必要物資の備蓄、ワクチンや治療薬を国内で生産できる体制を整備等、有事の医療提供体制を日頃から整えておくといった課題も明確になりました。今後、着実に改善していかなければならないと考えています。

地域医療が抱える問題と未来への取り組み

地域によって抱える課題はさまざまです。しかし、人口減少が急激に進み、地域の活力が

低下している中で、医療や介護をこれまで通り継続することは極めて困難です。

一方、医療や介護の仕組みのなるところで人は生活していけません。医療従事者の人手不足や、医療機関・介護施設の経営困難をどう克服するかなど、地域医療が抱える問題は深刻です。地域における合意を丁寧形成しながら、地域に合ったやり方を模索しなければなりません。この取り組みに対して、国はどのような支援ができるのかを考えることが重要です。

さらに、地域ごとのニーズに応じた医療を提供するため、自治体や医療機関との緊密な連携を強化しています。地域医療は、その地域に暮らす人々の健康と安心を支える柱です。これを守り、支えることで、地域全体の豊かさや安全を確保し、さらには国全体の医療の質を向上させることができると信じています。

健康教育の充実を

図りながら

安心の医療介護体制を

将来を担う子どもたちが健康で豊かな社会を築くためには、私たち大人が果たすべき役割が非常に大きいと感じています。特に、予防医療の重要性を子どもたちに伝え、彼らが自分自身の健康を守る力を育むことが大切です。健康教育を充実させることが、未来の社会にとって欠かせない基盤になると考えています。

同時に、少子高齢化が進行する日本において、医療と介護の連携が今後ますます重要になるでしょう。高齢者医療や介護の課題は深刻であり、これからの社会を支えるには、誰もが安心して医療と介護を受けられる体制を整えることが急務です。私は、医療と介護が持続可能な体制を築くために、全力で取り組んでいきたいと思っています。



かま やち さとし
釜 范 敏 先生

小児科医・日本医師会副会長

小泉小児科医院院長。1953年群馬県高崎市生まれ。1978年に日本医科大学を卒業後、小児科医として医療に従事。高崎市医師会、群馬県医師会の役員を経て、2014年から日本医師会の常任理事、2024年から副会長に就任。コロナ禍では政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会などの委員を務めるなど、医療分野に幅広く貢献している。



公式 HP



LINE



Facebook

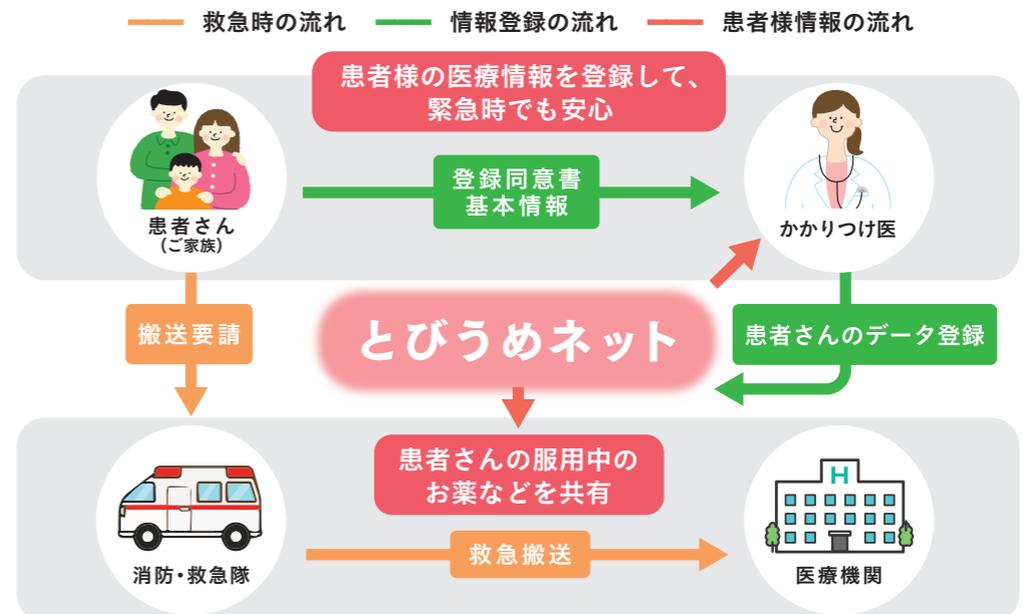


YouTube

「とびうめネット」は、本人の同意のもとで病歴、手術歴、服用中の薬、アレルギー情報などの医療情報を事前に登録し、体調を崩した際に素早く適切な医療を受けられるようサポートする情報ネットワークです。たとえば医療機関を受診する際、問診票やお薬手帳で、症状や服用中の薬、治療歴などを医師に伝えられていると思います。これらの情報は各医療機関で管理されているため、他の医療機関には共有されません。医師は必要に応じて、みなさんの病気や薬の詳細をほかの医療機関

みなさんは「とびうめネット」をご存じですか？

に問合せたり、紹介状で共有したりしているのです。「とびうめネット」では、かかりつけ医を通じて登録されたみなさんの医療情報が、「とびうめネット」に加入している医療機関や消防・救急隊などに共有されます。これにより、必要な情報を迅速に確認することができ、救急搬送時や初めての医療機関を受診する際も、安心して適切な治療を受けることができます。



※お申込みの受付ができるかかりつけ医、情報を参照できる医療機関については、順次参加を募りますが、すべての医療機関ではないことをご了承ください。



福岡県医師会では、福岡県や市町村、郡市医師会と協力し、市町村が保有しているレセプトデータ(患者さんに対する診療や薬の処方内容などを記したデータ)を「とびうめネット」に登録する取り組みを進めています。これにより、救急搬送された際に「とびうめネット」を利用する県内の救急病院や市町村内の医療機関が情報を確認でき、より迅速で適切な医療が受けられるようになります。この取り組みは、令和6年10月現在、北九州市、行橋市、苅田町、みやこ町、大牟田市、大川市、みやま市で実施されています。これらの地域にお住まいの方は、各自治体の窓口でも「とびうめネット」への登録申し込みが可能です。

とびうめネットに登録しておく

こんな時に役立ちます！

引越しや紹介で、かかりつけの医療機関が変わることになった。



「とびうめネット」に登録している医療機関では、過去の検査結果や治療方針を閲覧することができます。ほかの医療機関を受診する際も、登録していることを伝えるだけで、これまでの診療情報がスムーズに共有され、病歴や手術歴、過去の検査結果を詳しく説明できない場合でも、安心して診療を受けられます。

家族の体調が悪い...もし容態が急変したらどうしよう。

まずは慌てずに消防や救急隊に連絡し、搬送を依頼しましょう。救急隊が到着したら、患者さんの「とびうめネット」登録カードを提示するか、登録していることを伝えてください。

救急隊は、搬送先の医療機関に「とびうめネット」登録者であることを知らせるため、医療機関と連携がスムーズに取れ、搬送も迅速に行われます。

事故やケガの緊急時、自分の情報をきちんと伝えられないかも。



とびうめネットに登録していることが分かれば、医療に必要なデータが医療関係者に伝わります。正しい情報がすぐに共有されるため、迅速かつ的確な処置を受けられます。また、本人が会話できない状態でも、「携帯していた登録カードの情報から家族の連絡先がわかり、すぐに連絡できました」という事例もあります。

「とびうめネット」で共有される情報

- 氏名・性別・住所・生年月日・緊急連絡先
- 医療情報 今までのかかった医療機関名、症状、検査結果、病歴、服用している薬、アレルギーの有無など
- その他、医療・介護サービスの提供のために共有が必要な情報
- 要介護認定の状況や担当ケアマネジャーの事業所などの介護情報
- 特定健診などの健康診査の結果



教えて！

うめこ先生

登録にお金がかかるの？

「ご登録やご利用に費用は一切かかりません。」

情報は誰に共有されるの？

登録情報は、指定された医療関係者(指定された医療機関)のみ共有されます。情報の共有には専用の回線を用いて、国の基準に準拠したセキュリティ対策を講じています。

どこで申し込めますか？

まずはかかりつけ医にご相談ください。とびうめネットに加入している医療機関は、こちらの二次元コードで確認できます。



とびうめネット 登録の流れ

① かかりつけ医に相談しましょう

「とびうめネット」に登録したい場合は、かかりつけ医にその旨を伝え、医療機関や消防・救急隊などが情報を共有することに同意してください。

※かかりつけの医療機関が「とびうめネット」に加入していない場合は、医師がとびうめネット事務局に連絡し、その医療機関が加入した後に登録が可能となります。

登録無料

② 仮登録証(患者様控)を受け取ります

医師が患者様の基本情報を登録しますので、仮登録証(患者様控)を受け取ってください。

③ 登録カード・シールが自宅に届きます

とびうめネット事務局から届いたカードは保管し、シールは目に付く所に貼ってください。

登録カードの使い方



登録カードは健康保険証と一緒に持ち歩いてください。緊急時には救急隊に登録カードを見せることで、診療や対応がスムーズに進みます。

登録シールの使い方



シールは、玄関のドア内側や壁面など、できるだけ目につく場所に貼っておくようにしましょう。緊急時、救急隊員が患者様が「とびうめネット」に登録していることを早期に確認でき、搬送先医療機関との連絡に役立ちます。



登録内容の変更や中止、カードの紛失についてはこちらにお問合せください

とびうめネット事務局 公益財団法人 福岡県メディカルセンター
092-476-3809 (平日9時~17時)

これからの時期は特に注意！ 冬の感染症対策

寒さや乾燥により、ウイルスの活動が活発になり感染症が流行しはじめます。乳幼児や高齢者など抵抗力の弱い人が感染すると重症化することもあるため、基本的な感染対策を行い、普段から予防に努めましょう。

予防のキホン

- ☑ 丁寧な手洗い・うがい
- ☑ こまめな消毒
- ☑ 定期的な換気
- ☑ 人混み等におけるマスクの着用
- ☑ 加湿器などで室内の湿度を50〜60%に保つ
- ☑ 予防接種

免疫力が弱っていると感染しやすくなるため、十分な睡眠とバランスの良い食事を心がけ、免疫力を高めておくことも大切です。



冬に流行しやすい感染症

基本的な感染予防に加えて、それぞれの感染症に応じた対策も行いましょう。

インフルエンザ

毎年12月〜3月頃に流行し、38℃以上の発熱や喉の痛み、全身のだるさ、関節痛などの症状がみられます。一般的な風邪よりも感染力が強く、ウイルスに感染後1〜3日の潜伏期間を経て比較的急速に症状が現れるのが特徴です。

対策

肺炎などの合併症のリスクがある高齢者、および脳炎・脳症などのリスクがある小児、特に就学前年齢では予防接種をお勧めします。65歳以上の高齢者および60〜64歳で重症化の恐れのある基礎疾患のある方を対象に、定期接種を行っています。ワクチンの抗体ができるまでに2〜3週間かかるといわれていますので、早めに予防接種を受けようようにしましょう。詳しくはかかりつけ医にご相談ください。

新型コロナウイルス感染症

依然として注意が必要な感染症です。潜伏期間は2〜7日程度で、発熱、せき、頭痛、喉の痛み、下痢、食欲がない、疲れやすいなどの様々な症状がみられます。発熱を伴わないケースも増えているため注意しましょう。

対策

重症化リスクのある高齢者には予防接種をお勧めします。インフルエンザ同様、65歳以上の方および60〜64歳で対象となる方には、2024年10月1日〜2025年3月31日の間、市町村による定期接種が行われます。接種できる場所や費用については、お住まいの市町村にお問合せください。また任意接種として、時期を問わず自費で接種を受けることもできます。

感染性胃腸炎(ノロウイルス等)

特に11月〜2月に多くみられ、おう吐、下痢、腹痛、微熱などの症状を引き起こします。治療は輸液などの対症療法のみです。通常は3日程度で回復しますが、乳幼児や高齢者は脱水や、おう吐物による窒息などに気をつけましょう。

対策

ノロウイルスにはワクチンがないため、手洗いなどの基本的な予防が重要です。加熱が必要な食品は、中心部が85〜90℃で90秒以上しっかりと加熱してください。おう吐物の処理では塩素系消毒薬が有効です。

